

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	府中市北山町 3 - 2 7 - 9
園名	府中市立北山保育所

1. 活動のテーマ

<テーマ>

野菜

<テーマの設定理由>

園庭の畑やプランターでの栽培ができる環境にあり、子どもたちが直接種、苗に触れ、野菜を身近に感じることが出来ている。その中で「芽が出てきた!」、「昨日より大きくなってる」、「もう食べられるかな?」など、興味を示したり、友だち同士で会話する姿も見られている。また、保育の中で給食食材に触れる機会（食育活動）があり、「いいにおい」、「これ、（自分が）皮剥いた!」などの経験から食に関する興味関心の高さが伺われるため、子どもの気づき、発見、その面白さ、不思議さを感じられる活動としてより子どもの主体性、探究活動が広がると考えるため

2. 活動スケジュール

・前年度からの継続の取組と合わせて、3月からじゃがいも、4月からしいたけ、5月からはゴーヤを栽培し、随時水やりや観察を行いながら、気になる様子があれば、皆で確認をしたり、話をするなどしてきた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・育てているものを詳しく調べられるような図鑑や、興味や関心をさらにもつことができるような絵本を保育の中に取り入れ、気になった時には手にとれるようにしてきた。
・生長の観察や活動時の様子を記録するために、カメラ、顕微鏡、定規などを用いた。また、撮影したものを見る際には、PCとプロジェクターを繋いでクラス皆で見られるようにしてきた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・原木を見て、何の木なのかみんなで考えてみた。庭にある桜の木なのではないかと考える子が多かった。きのこ話す子もなかにはいて、きのこならば、どこからどんな風に出てくるのか、楽しみにする様子も見られた。

- ・毎日、当番活動を通して、水やりをし、きのこが少しずつ大きくなっていく様子を観察したり、成長や気づいたことなどを、報告し合ってきた。
- ・収穫を通して、実際のしいたけの硬さ、柔らかさ、においなどに気づいていた。また、収穫したものをを使い、胞子が傘から落ちる様子の観察を試みたり、それは上手く見ることができなかったものの、黒い紙にしいたけを置いておくことで、紙に写る胞子数を観察したりもした。
- ・収穫したものを実際にクラスで食べてみたり、ほかのクラスにも食べてもらいたいという思いから、調理してもらったものを各クラスにも子どもたちが届け、食べてもらう機会を作った。また、そこから他のクラスとの交流につながったりもしていた。
- ・実際に見たり、触れたり、食べたりして感じたことを、個々にしいたけを描くことで表現したり、グループで感じたことを話し合い、それをクラス全体でも共有するなどしてきた。
- ・保護者に対しては、日々のお知らせや懇談会の中で、様子をお伝えしてきた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

- ・子どもたちが水やりの当番活動や日々の観察の中で、気づいたことや気になったことは、子どもたち自身で、友だちに伝えたり、保育者が声を拾い、クラス全体へと伝えることで共有してきた。また、気づいたことを小グループで話し合い、そこで出されたことをまとめ、保育室内に掲示してきた。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- ・野菜を顕微鏡で観察する経験から、虫や花など、気になるものがあると「けんびきょうでみるのは？」と、一つのものを深く知ろうという気持ちが育ってきているように感じる。
- ・水をあげていても上手く育たず、どうすれば育つのかを子どもたちと考えたり、考えたことを実行してきたが、それでもなかなか育たずうまくいかないこともあった。気候も以前と変わってきているので、今までの考えや経験ではうまくいかないということも出てくるのではないかと思った。うまくいくことだけが、活動の目的ではないと思うので、試行錯誤しながら活動に取り組むことも子どもたちにとっても学びになっているのではないかと思った。